



ウェーブロックホールディングス株式会社

説明資料

2019年 3月

証券コード:7940 東証一部上場

商号	ウェーブロックホールディングス株式会社
本店所在地	東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー13F
設立	1964年6月
資本金	21.8億円
発行済株式総数	11,120,538株
上場証券取引所	東証一部（2017年4月10日東証二部上場、2018年4月10日東証一部指定）
代表者	代表取締役 兼 執行役員社長 木根 渕純
従業員	(連結)743人 2018年9月末時点
決算期	3月末
主要経営指標	(2018年3月期 実績) 売上高 277.7億円 営業利益 18.3億円 親会社株主に帰属する当期純利益 15.9億円 (2019年3月期 予想) 売上高 285.5億円 営業利益 18.4億円 親会社株主に帰属する当期純利益 16.0億円

インテリア事業

住宅用壁紙製品等の製造・販売
国内マーケットシェアNo.1

売上高 95億円 営業利益 7.6億円



壁紙ベース



ロータリー
製品



グラビアエンボス
製品

農業用ネット



遮光ネット



住宅用防虫網



樹脂製網製品等の製造・販売
防虫網国内シェアNo.1

売上高 83億円 営業利益 7.1億円

編織事業

産業資材・包材事業

樹脂製フィルム、シート等の製造・販売
各種製品で高いマーケットシェア

売上高 93億円 営業利益 3.4億円



工事用
仮設シート



防煙垂れ壁



PSシート
食品包装用資材

【全体】

売上高 285億円
営業利益 18億円

ホイールキャップ



スーツケース



前面板・筐体



金属調加飾フィルム、高機能多層シート等
の製造・販売

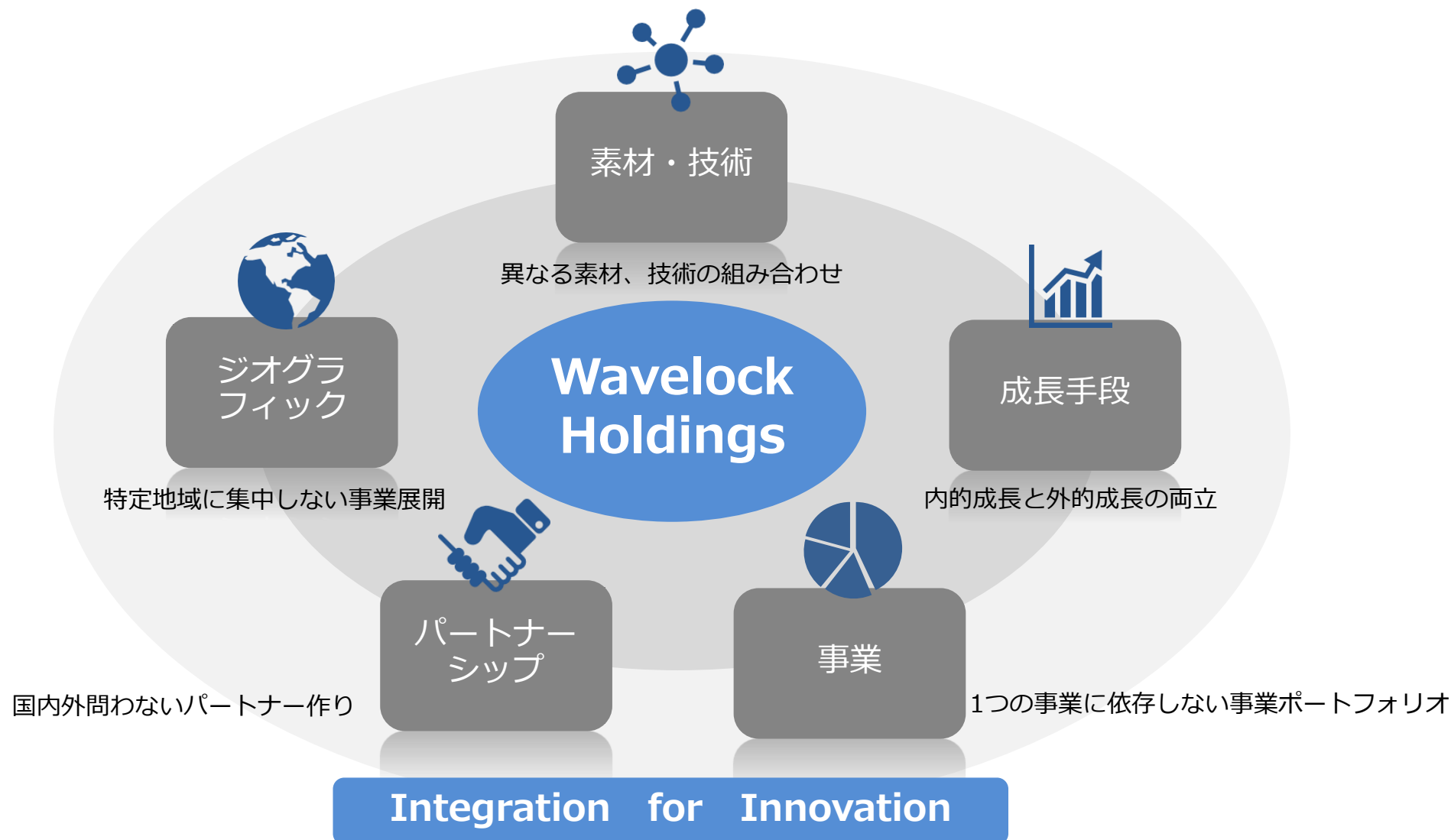
次世代の高付加価値製品を提供

売上高 36億円 営業利益 4.1億円

アドバンステクノロジー事業

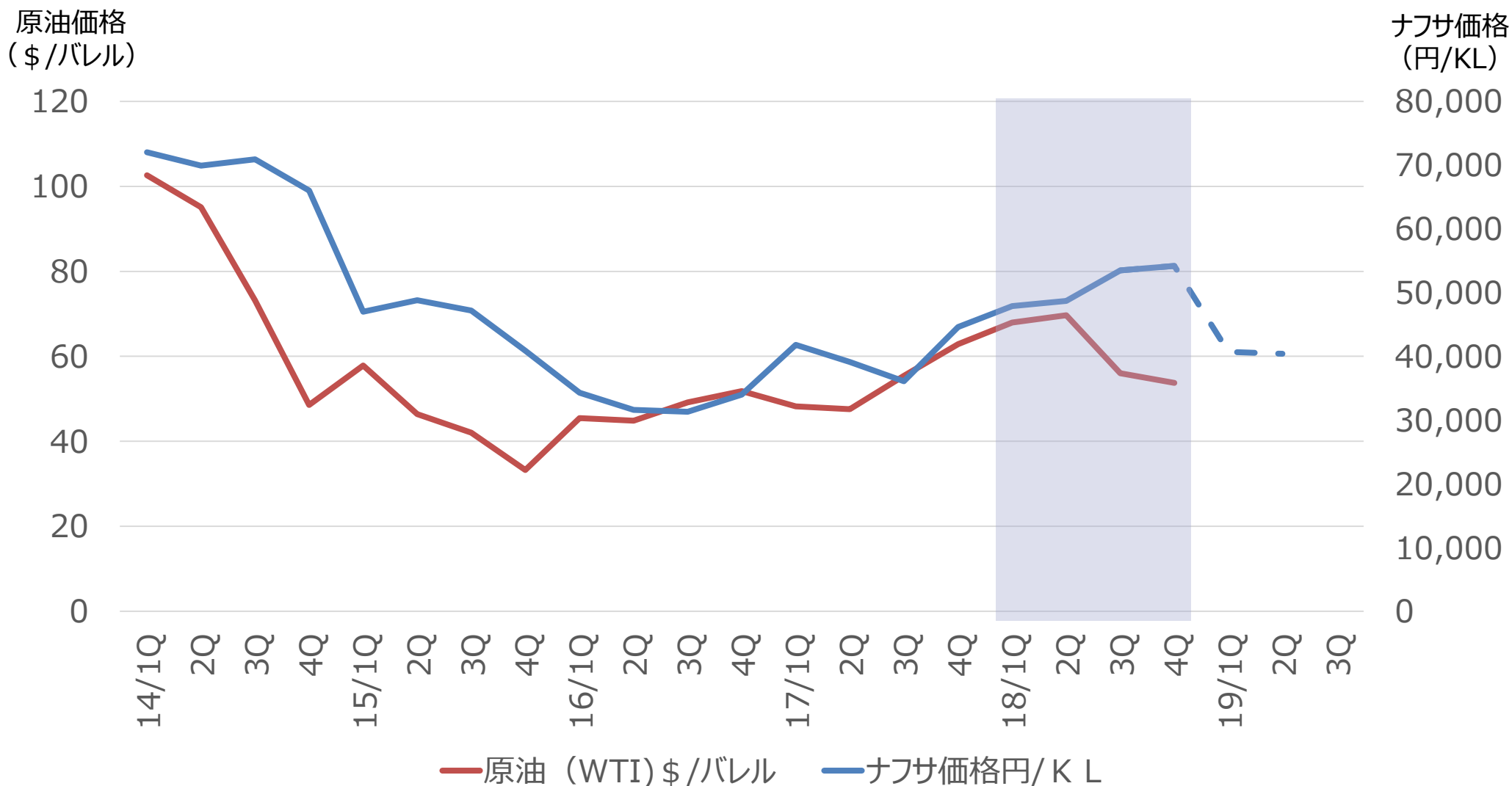
※売上高、営業利益は2019年3月期予想。セグメントの売上・営業利益はセグメント間の取引を含む。

異なる特徴を持つモノを複数「組み合わせる」ことで新たな価値を創造



今上期は、樹脂加工メーカーの多くが
原油高、材料高に苦しんだ

原油とナフサの価格推移



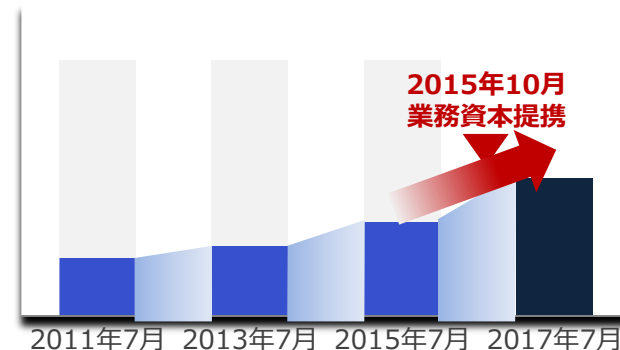
※破線：アメレックス・エナジー・コムによる見込み



(株)サンゲツとの業務資本提携により 更なるコスト競争力を獲得し、成熟市場での残存者利益を追求

- 壁紙市場の過半シェアを占めるブランドメーカー（株）サンゲツと中長期的視点を共有することで、設備投資等の中長期戦略が可能に
- バリューチェーン上の効率化から強力なコスト競争力を獲得
- 他社の追随を許さないコスト競争力を獲得し、（株）サンゲツ向け売価に還元することで、パートナーシップを強化

サンゲツの量産見本帳における当社壁紙シェア



(株)サンゲツとの提携に合わせ、製造工程のボトルネック部分を解消

- 2017年2月に大型設備投資が完了
- 一関事業所のキャパシティを約50%、全壁紙生産キャパシティを約30%増強。
- 一関事業所にある業界最高速のコーティング設備の余剰キャパを有効活用





高シェア製品を多数保有

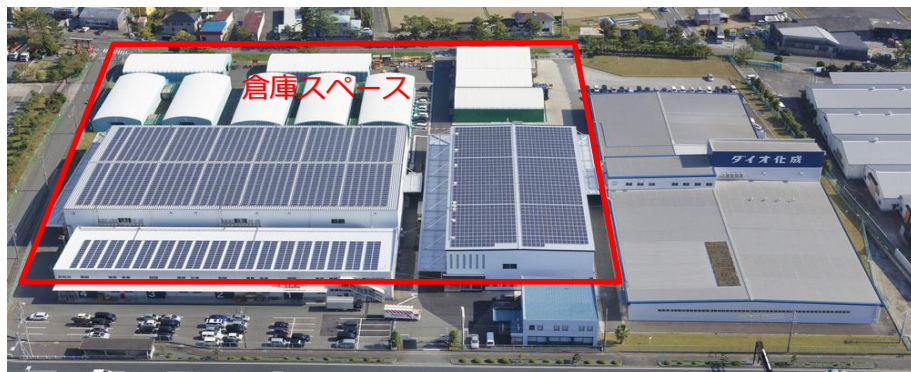
分野	製品
生活資材	張替用防虫網、園芸用ネット
農業用資材	遮光網、防風網、防虫網
産業用資材	住宅用防虫網、建設用ネット

- ネットは一見付加価値の低い製品に見えるが、虫、動物を介した病気対策や減農薬農業等に役に立つ製品
- 日本国内は成熟した市場だが、海外市場での成長が期待できる分野

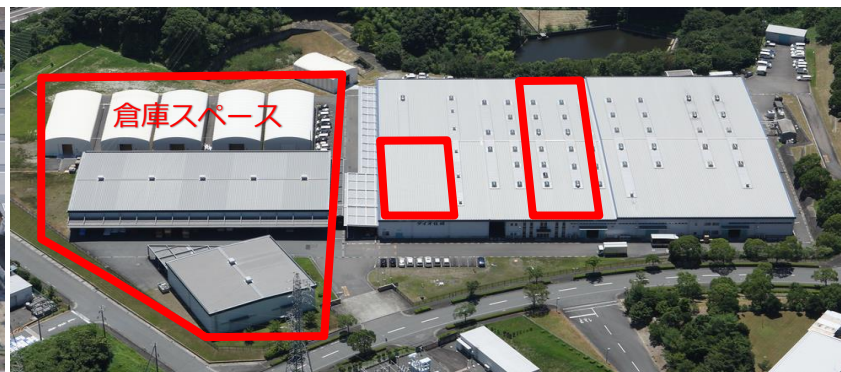


ユニークな供給体制 「仕組み」を武器として、ホームセンターとの取引を拡大

- 防虫網、園芸用ネット、遮光網等は、①売上の季節変動が大きく、②その年の天候によって需要が大きく変化する、ホームセンター等にとっては、在庫管理の難しい商材
- 工場の2/3を倉庫とすることで、生産は通年で平準化しながら、品切れを起こさず、かつ、シーズン終了時点での返品を受け入れが可能に



袋井工場（1964年設立 約35,868㎡）



掛川工場（1998年設立 約49,981㎡）

インテリア

編織

産業資材・包材

アドバンスト
テクノロジー



産業資材分野

- 各種シート、フィルムの製造・販売
- 高シェア製品多数

従来品：

- 成熟市場で原材料高の影響を大きく受ける。
- 今上期は材料高の影響を受けたが、第3四半期以降、値上げ効果が徐々に浸透

開発品：

- 今上期は、前期好調だった一部製品で、競合他社の巻き返しに合う
- 第4四半期以降は対抗品を市場投入し、再度巻き返しを狙う



包材分野

- 食品包材用シートの製造・販売
- 食品包材シートの加工（真空成型）

シート加工：

- 主要顧客の協力を得て、真空成型工程の改善に取り組むことで、取り扱い可能製品の拡大、生産効率アップを目指す活動を実施
- 10月に新ラインを導入

シート製造：

- 外販用シートは、第3四半期に入り、シート加工に用いる内製用シートの需要増に備え、材料アップ分の売価転嫁を積極実施し、収益改善
- 内製用シートは、社内シート加工必要分の確保に尽力。2月以降調達に目途

インテリア

編織

産業資材・包材

アドバンス
テクノロジー

① 金属調加飾フィルムの製造・販売・加工

- ・ 光透過性、電波透過性、防錆性を持つ、外観が金属調のフィルムの製造・販売・加工
- ・ 光・電波透過性に加え、メッキに比べ製造工程での環境負荷が小さく、かつ、軽量であるため、クルマ、家電製品等に利用される

② スマートフォンやナビゲーションシステム向け等の光学特性に優れた多層シートの製造・販売

③ 医家向け貼付材用の不織布印刷、離けいPETフィルムへの印刷とシリコン処理

④ 食品等向けの開封テープの輸入販売



自動走行運転技術の進展：電波透過性能

インテリア

繊維

産業資材・包材

アドバンスト
テクノロジー

衝突被害軽減ブレーキ義務化の流れ

衝突被害軽減システム用センサー部分に、メッキや金属に替わる電波透過性に優れた代替素材として、金属蒸着を利用した金属調パーツの需要増大

レーダー波を阻害しないセンターエンブレム



金属調加飾フィルムは、一般的に、樹脂パーツへの直接蒸着と比較し、歩留りが高く、コスト面で有利

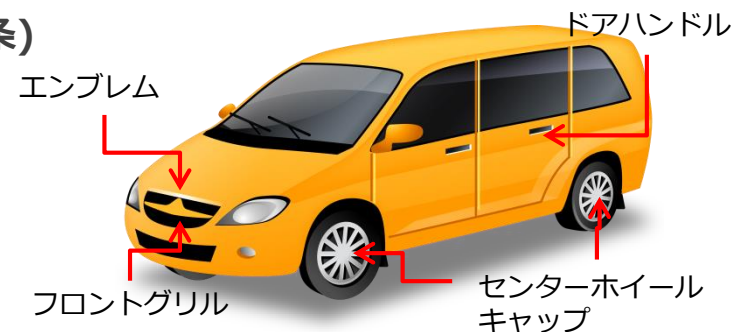


環境規制による市場拡大：環境規制と防錆性能

2000年10月制定 ELV[End-of Life Vehicles]に関するEU指令(第4条)
～新型車の環境負荷物質に関する規制

六価クロムメッキの代替として三価クロムメッキへのシフトが図られるが、耐腐食性能不足や高コストのために浸透せず

金属調加飾フィルムは環境負荷の低減と、防錆を両立



乗用車に利用される主なメッキ製品

インテリア

繊維

産業資材・包材

アドバンス
テクノロジー



共押し出しによる光学用途を主力とする特殊単層・多層シートの生産・販売

特殊単層・多層シートの製品特徴

- 少ない異物、高い層厚層比精度による、高い光学特性

主要用途

- ・ スマートフォン筐体向けシート
- ・ ナビゲーション・システム向けシート
- ・ ヘッドアップディスプレイ向けシート



前年度は設備トラブルにより大幅赤字だったが、今上期にトラブル解消し下期よりフル生産状態

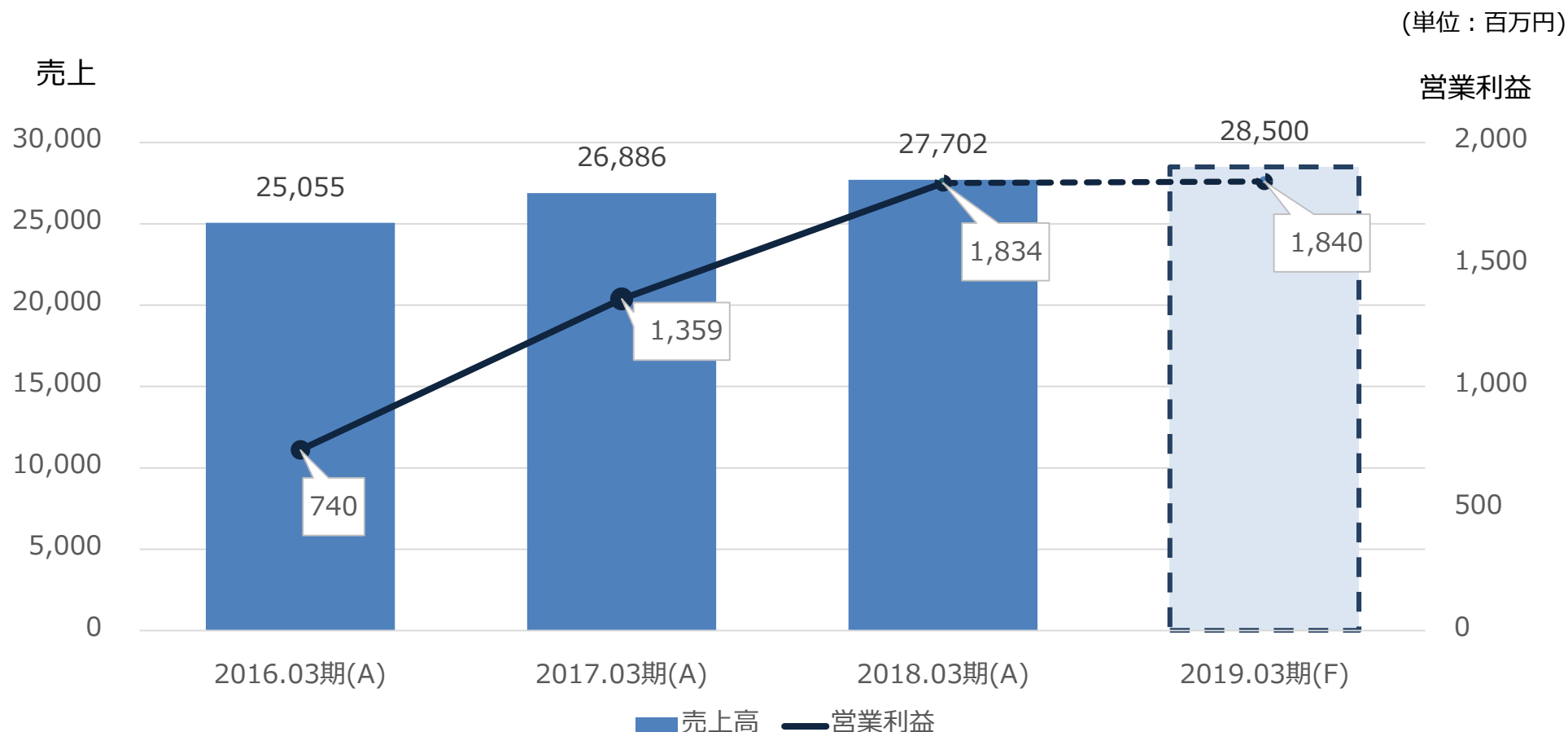
業績について

損益推移

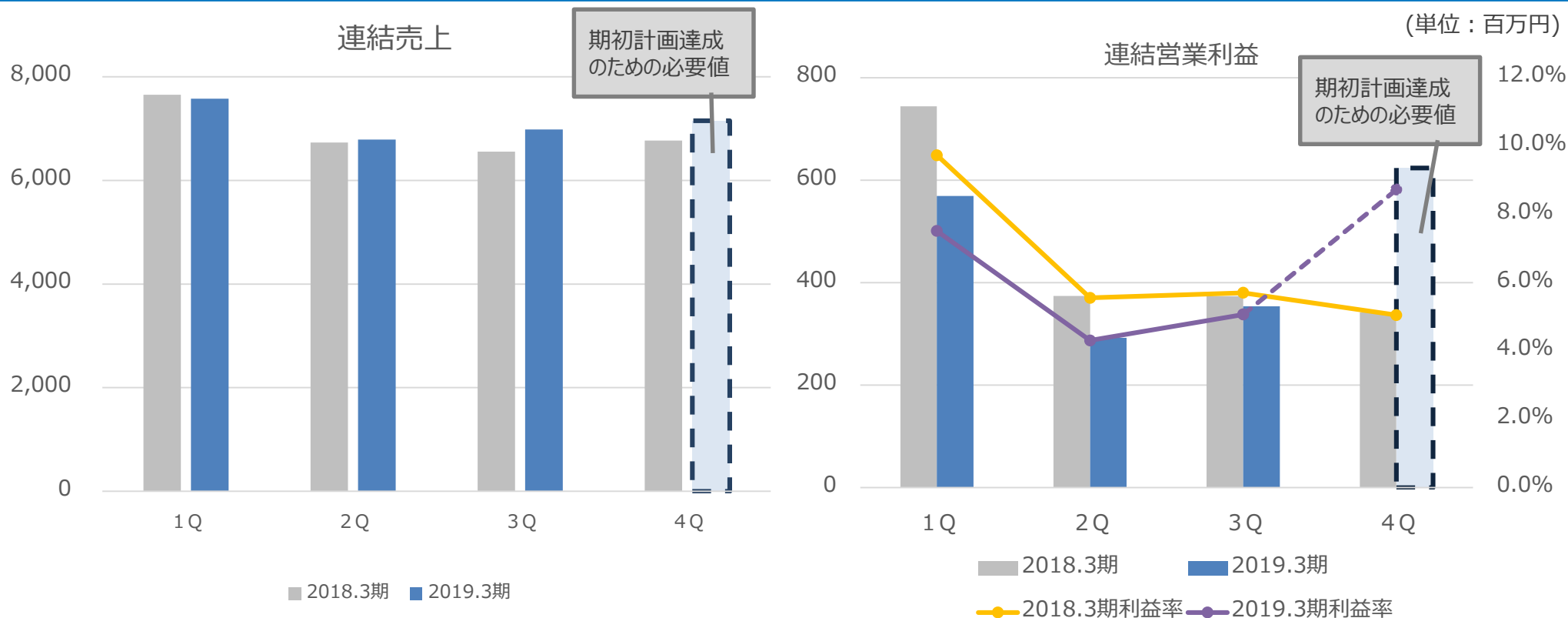
(単位：百万円)

	2016年 3月期 (実績)	前年比	2017年 3月期 (実績)	前期比	2018年 3月期 (実績)	前期比	2019年 3月期 (計画)	前期比	2019年 3月期 3Q累計 (実績)	進捗率
売上高	25,055	+1.6%	26,886	+7.3%	27,702	+3.0%	28,500	+2.9%	21,347	74.9%
営業利益	740	△18.9%	1,359	+83.6%	1,834	+34.9%	1,840	+0.3%	1,215	66.1%
経常利益	904	△32.5%	1,696	+87.5%	2,144	+26.4%	2,160	+0.7%	1,519	70.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	365	△64.5%	1,107	+202.9%	1,594	+44.0%	1,600	+0.3%	1,127	70.5%

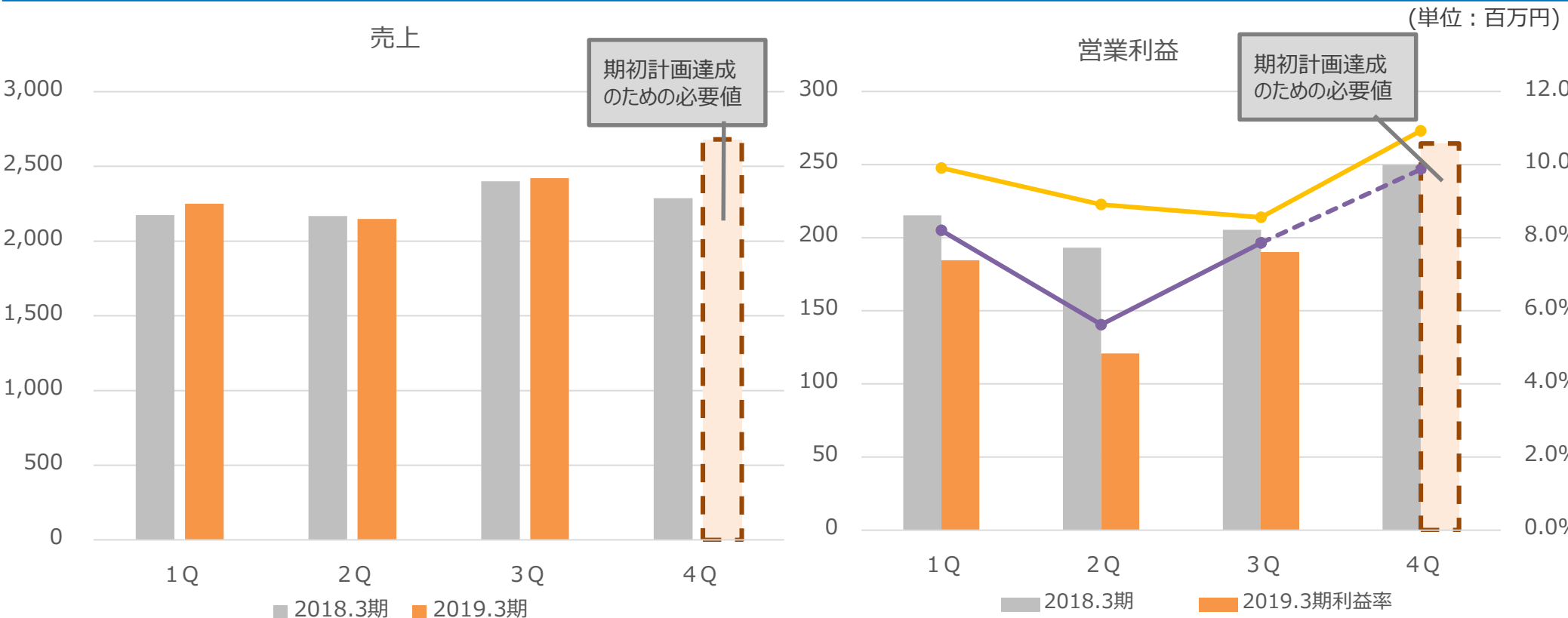
- 2018年3月期は、売上高・営業利益ともに過去最高
- 2019年3月期は、売上高過去最高を更新の見込み。営業利益は過去最高であった前期並みを見込む



2019年3月期業績（前期比較）



- 期初計画に対して、**第3四半期までの進捗は順調**
- 売上は前年同期比+2.0%。営業利益は前年同期比△18.5%ではあるが、コストアップ分の**売価転嫁効果は第3四半期以降徐々に浸透**し、利益率は回復基調
- 過去最高の売上・営業利益を上げた前期並みの年間業績達成を見込む

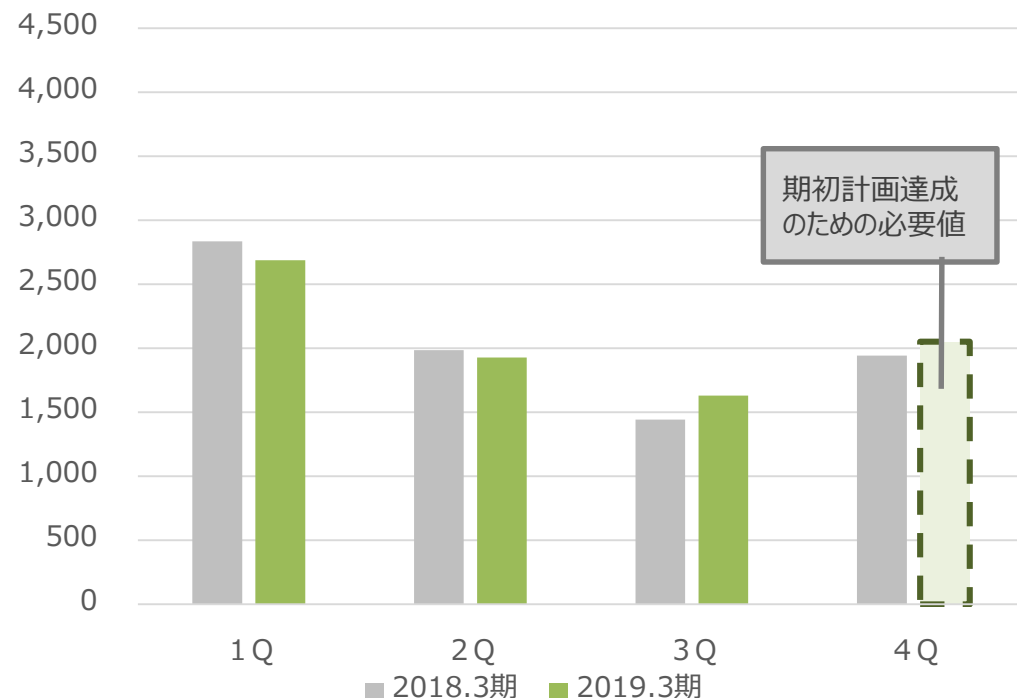


- ・ 期初より量産品売上好調。一方、中級品については、第1四半期に起きた（株）サンゲツ見本帳配付遅れの影響により売上低調であったが、第3四半期以降、徐々に復調
- ・ 前述の中級品の復調に加え、秋からの値上げ効果が徐々に浸透し、第3四半期より前期比売上高増加
- ・ 第4四半期も好調に推移し前期比増の見込み

- ・ 秋からの値上げ効果等により第3四半期以降の利益率は回復。加えて比較的利益率の高い中級品の売上復調が利益増に寄与
- ・ ただし、第3四半期は旧値での受注残もあり、フルの値上げ効果は享受できず
- ・ 第4四半期は値上げ効果がフルで浸透。通期での営業利益目標達成を見込む

編織事業 四半期推移

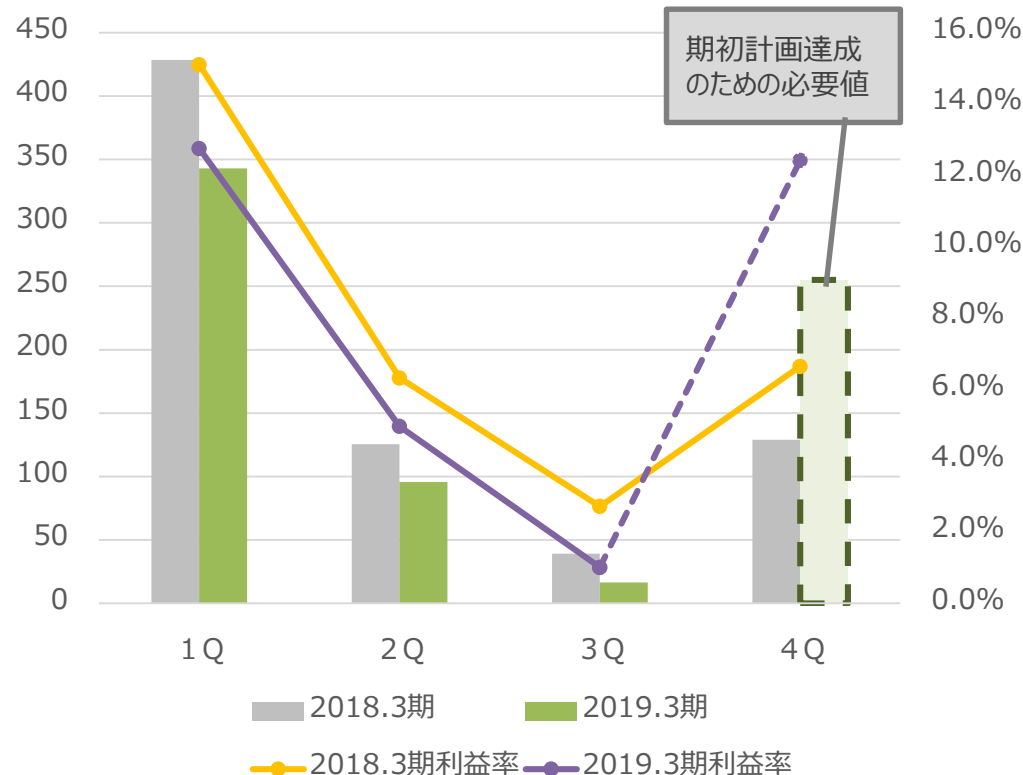
売上



- 上期は一部商圈逸失等により前期比売上高減少
- 農業資材における事業物件の取り込みや季節商材の拡販が奏功し第3四半期の売上高増加
- ホームセンター向けの生活資材分野の需要期である第4四半期のシーズンインに向けて大口取引先を再獲得したことにより、第4四半期の売上高は前期比増の見込み

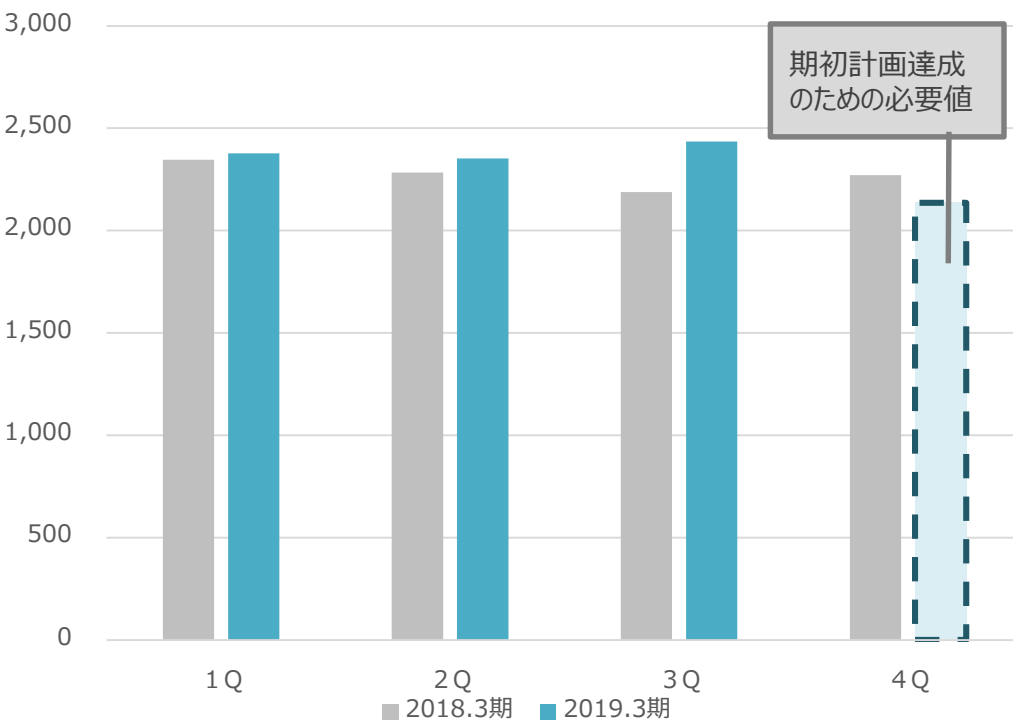
営業利益

(単位：百万円)



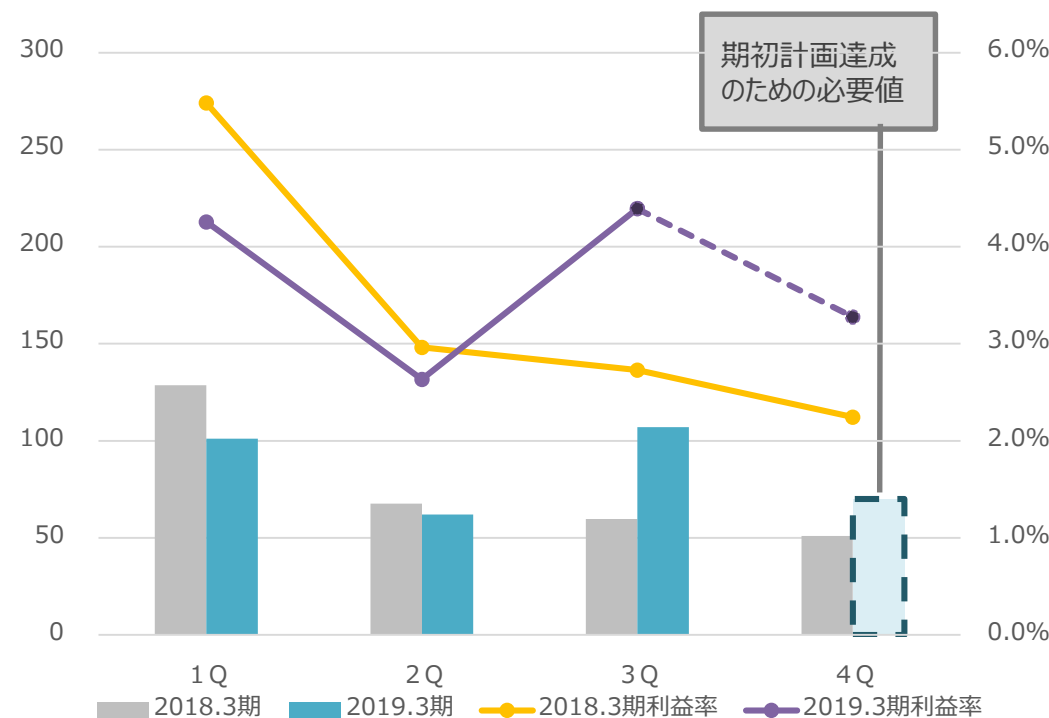
- 第3四半期からの売上高の増加に加え、3月からの需要期シーズンインにおける大口取引先獲得による売上拡大に伴い、生産効率大幅アップし、営業利益率も改善する見込み

売上



営業利益

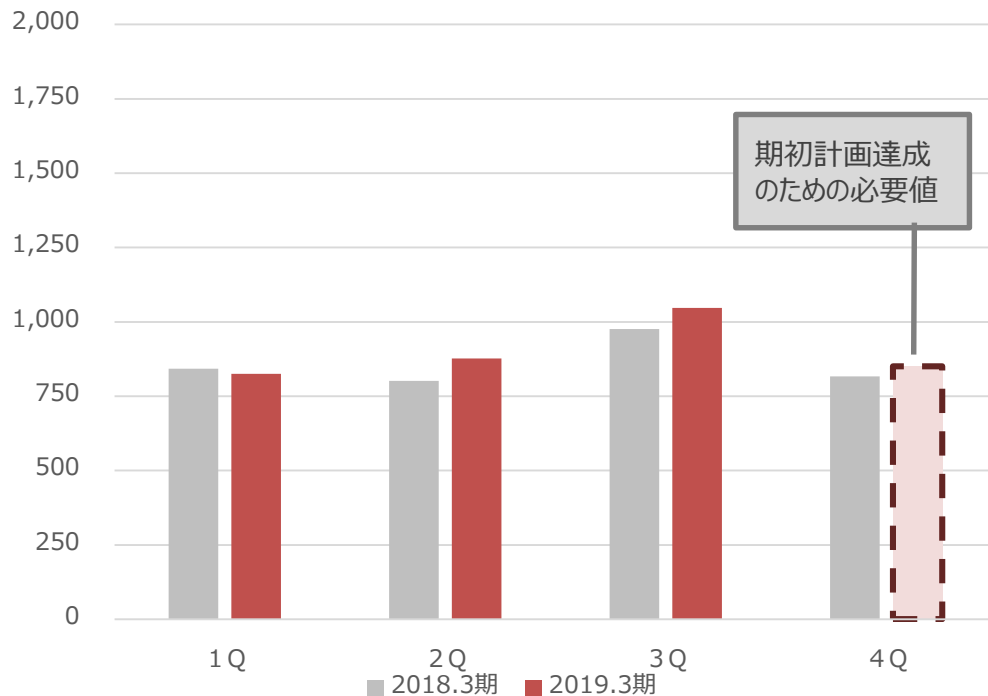
(単位：百万円)



- 産業資材分野においては建設および住宅関連業界向けの需要が堅調
- 包材分野においてはコンビニエンスストア向けの食品容器成型品が低調だったものの、食品包装用シートがコストアップ分の売価転嫁を秋以降進めた上で売上高増加
- 今期を通して各四半期で前期売上高を上回る。売上高通期目標は達成可能と見込む

- 第3四半期以降、値上げ効果により利益率が改善し営業利益増加
- 第4四半期以降は食品容器成型品を中心に生産体制の見直しを実施したこと等により、更なる利益改善を見込む
- 通期の営業利益目標達成は可能と見込む

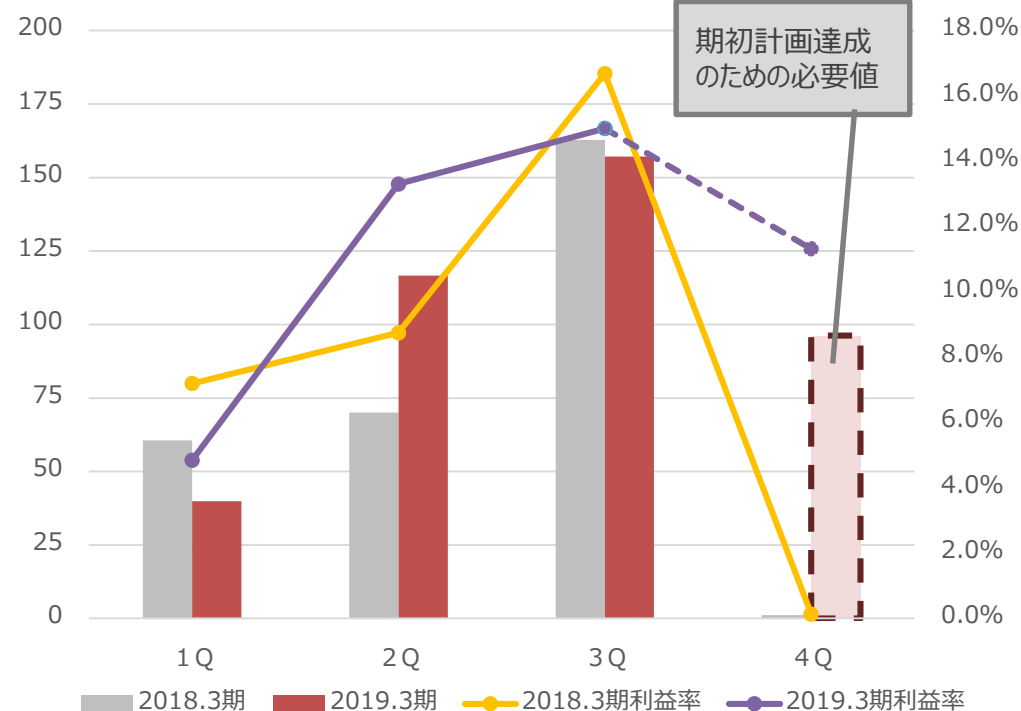
売上



- 金属調加飾フィルム分野において、中国での自動車に対する新たな排ガス規制により生じた現行モデルの在庫調整等の影響を受け、第4四半期は失速。ただし、環境規制は中長期では追い風
- PMMA/PC2層シート分野においては、スマートフォン用途向けが堅調

営業利益

(単位：百万円)



- 前期のPMMA/PC2層シート分野は、生産トラブルにより大幅赤字で他分野からの利益を帳消し。結果、アドバンステクノロジー事業全体の前第4四半期はほぼブレイクイーブン
- PMMA/PC2層シート分野の上記生産トラブルは当第1四半期までに解消。第2四半期以降、売上高・利益ともに大幅改善
- 第4四半期は中国市場の落ち込み等により金属調加飾フィルム分野は低調と見込むが、PMMA/PC2層シートを中心とする他ビジネスにより営業利益は通期目標達成を見込む

基本方針

- 配当性向^{※1}：**20%から30%**を目安に、安定的な配当を実行・維持する

2019年3月期 配当

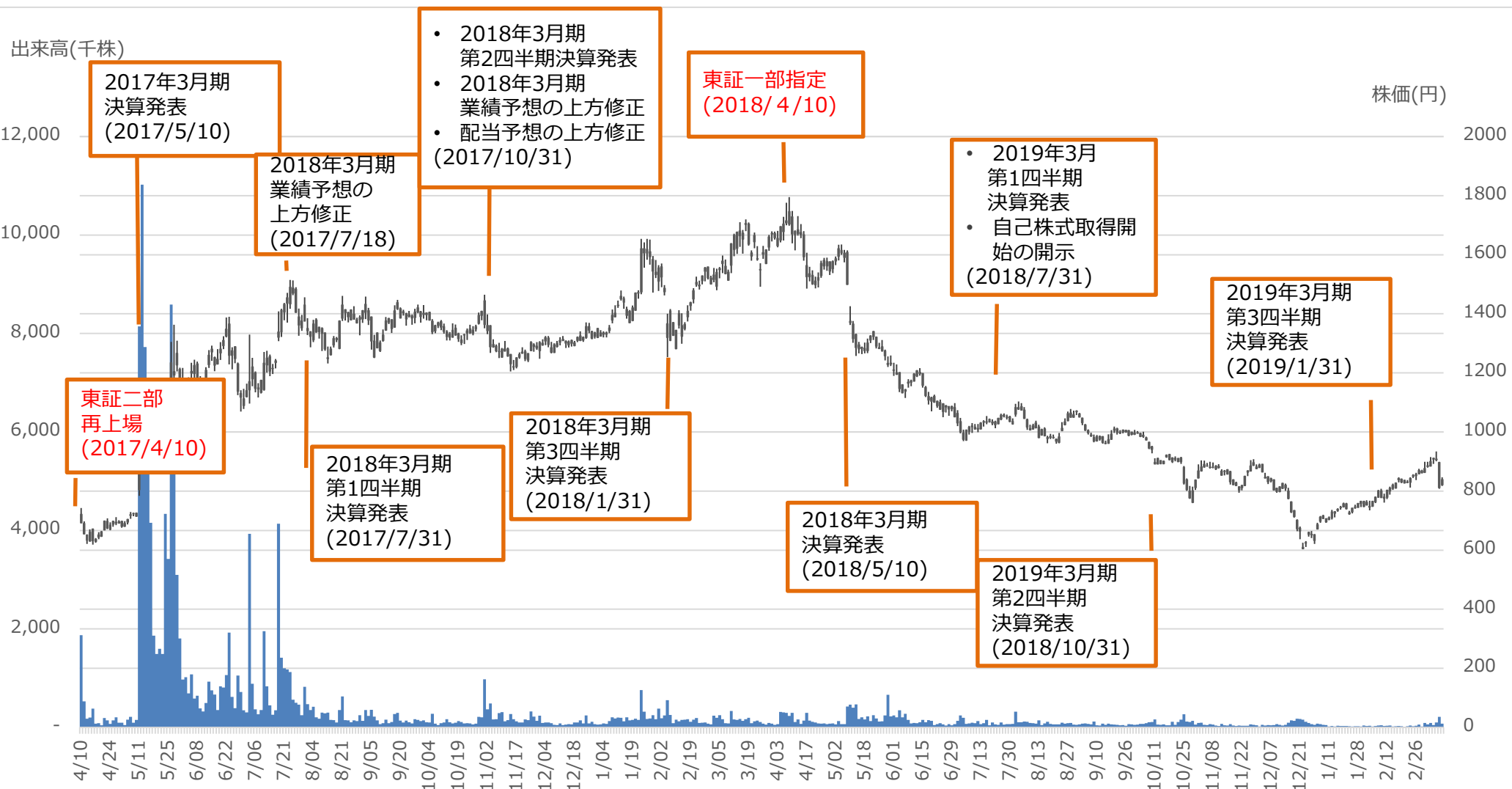
	1株あたり配当金（円）		
	第2四半期末（実績）	期 末（予定）	合 計
2019年3月期	14円	14円	28円

- 年間業績見通しベースの配当性向^{※1}は**23.0%**^{※2}
- 配当利回り**3.3%**（2019年3月11日時点）

※1 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向
＝ 配当総額 / （親会社株主に帰属する当期純利益 － 負ののれん償却額）

※2 発行済株式総数から自己株式数を控除した株式数により計算

2017年4月10日、東証二部再上場 2018年4月10日、東証一部指定



POINT1

スモールマーケットでのNo.1事業の集合体

POINT2

**「組み合わせ」と「仕組み」で安定的、継続
的成長**

POINT3

**今期は原材料高の逆風の中、前期に達成した
過去最高売上高・最高営業利益と同等の業績
を達成する見通し**

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。